

2年生女子生徒一斉反抗における 5人同時反省室収監事態に関する経過報告

概要：昨日、2年生の女子生徒全員が男子生徒および教師に反抗し、そのまま5人全員が反省室に収監されるという事態が発生した。これほどの不祥事は類を見ず、非常に異常な事態と言える。特に、女子生徒本人たちにこのような事態を引き起こした自覚がまったくなく、情状酌量の余地が何ひとつないということも、本事件の特異性を際立たせている。

本報告は、事件発生から現時点までの途中経過について記述したものであり、翌日以降の反省指導への参考にしていくために記したものである。

Keyword：反省室，反省指導，反抗事件，反省鞍馬，全身洗淨，連帯責任

1. はじめに

聖女学園で前代未聞の異例の事態が発生した。2年生の女子生徒全員が、一斉に男子生徒および教師に反抗し、男子生徒への暴力や学園内の器物破損という事態にまで及んだのである。この事態に直面した小職(2年担任教諭：北島玲子)は、この状況を重く受け止め、2年生女子生徒5人全員を反省室に収監するという処置に踏み切った。一学年の女子生徒全員を同時に反省室に収監するというのは、学園始まって以来のことであり、極めて異例の処置であると言える。

本報告は、この5人同時反省室収監における経緯から、現時点までの経過について記したものである。

2. 5人同時反省室収監に至る経緯

事件は昨日の昼休みに発生した。小職が教室の前を通りかかった際、クラスの中が騒がしく言い争いをしている様子だったため、教室に入り騒ぎを制止しようと試みた。しかし、女子生徒は私の指示を聞くどころかさらにエスカレートした。高瀬真由美が男子生徒を平手打ちし、佐藤希が男子生徒を蹴って壁に衝突させるとともに掲示板の一部を破損させた。ここに至り、ようやく騒ぎを沈静化することに成功した。

このような事態を引き起こした原因を調査するため、女子生徒全員を教室の後ろに整列させ尋問したが、女子生徒たちの回答はまったく要領を得なかった。喧嘩の原因すらも覚えていない様子で、支離滅裂な発言ばかりであり、原因の追究は断念せざるを得ない状況だった。しかし、学園で固く禁じられている男子生徒への暴力・暴言を組織的に行ったという事実は大変に重く、かつ本人たちにもその理由が不明という無責任極まりない状況に情状酌量の余地は一切認められず、わずか10分足らずの職員会議で2年生の女子生徒全員

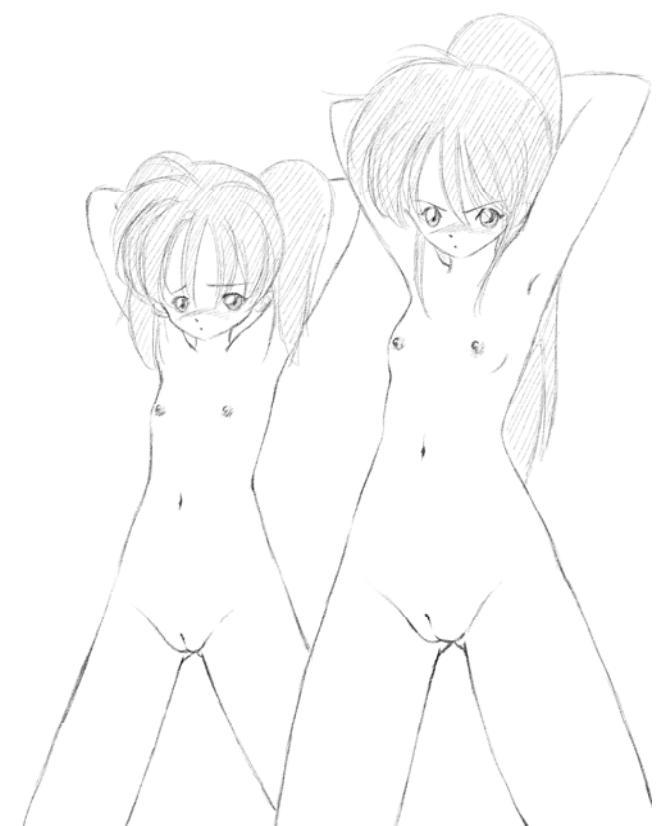


図1. 開脚反省中の川上綾と高瀬真由美

を、1週間反省室に入れるという厳罰が決定された。
また、学園内の風紀を著しく乱し、かつ男子生徒への傷害、校内備品の破損に対する追加暫定処分も併せて行われることとなった。

3. 一斉反抗に対する追加暫定処分

追加暫定処分は、放課後反省室に収監されるまでの間暫定的に施される処置で、即時反省を求めるような事態を引き起こした際に適用されるものである。今回は、女子生徒全員の制服没収と、放課後まで両手を後頭部で組んだ開脚姿勢で反省することとした。

昼休みの間は、教室の後ろに並ばせて反省を促した。その際、開脚反省姿勢については厳しく指導し、胸の張り方や股の開き方等、不十分な反省姿勢と思われる点を入念に指導した。特に股間部については、反省を促す上で非常に重要な部位であるため、教鞭を用いてしっかりと大陰唇を開き、クリトリスを剥き出しにして反省できるよう、何度も指導を繰り返した。

この処置は放課後まで実施としたため、午後の授業は、自席で椅子を跨いだ格好で立たせ、両手を挙げた状態で受けさせた。女子生徒が授業中に発表等で起立している場合には、男子生徒からの任意指導が認められる。この原則を適用し、開脚反省中の女子生徒への男子生徒による指導も全面的に許可して、生徒同士による積極的な反省活動を促した。なお、授業中も姿勢を崩した女子生徒に対しては、引き続き厳しい指導を継続した。羞恥心の強い柏原瑞穂のクリトリスには、授業中だけで3度の教育指導を施す結果となった。

4. 多人数用特別反省室

今回、5人同時反省室収容という決定を下した理由のひとつとして、先日完成した多人数収容可能な特別反省室の存在がある。この特別反省室は、柔軟なレイアウト機能により、さまざまな形態での運用が可能で、5～20人の収容が可能である。今回は、連帯責任としての意味合いを持たせるために、5人1室収容の形態で収監した。ただし、単に5人を同室に収容するだけでは反省にならないため、反省室内では、常にバイブレーター付き反省鞍馬に跨らせ、両脚を固定することとした。両手については、反省室に入った時点で後ろ手拘束としたため、ほぼ全身が拘束されたことにな



図2. 授業中に男子生徒から指導を受ける佐藤希



図3. 反省鞍馬に跨る柏原瑞穂と水野由紀

る。

まずは、副担任の紺野亜紀子教諭および神崎恵理子寮長とともに、5人全員を反省室内に並べた鞍馬に座らせ、膣にバイブを挿入した状態で両脚を固定した。その状態で5人の女子生徒たちに、今回の反省室における注意点を通達した。それは本反省室におけるトイレに関する内容である。この特別反省室は工事スケジュールの関係から、現時点では水周りが未完となっている。しかし、反省中は反省室から出られない規則であり、反省室内のトイレが不備だからといって規則を曲げることは当然認められるものでもない。したがって、今回に限り反省室内にいるときの排泄は全面的に禁止とし、もし粗相をした場合には、連帯責任として5人全員にペナルティを課すことを説明した。

5. 反省奉仕活動

反省者には1時間の奉仕活動が義務付けられている。今回収監された5人には、男子寮の清掃活動が反省初日の奉仕活動として命じられた。両手を使えない女子生徒たちに配慮するとともに反省を促すために、清掃具はすべて女性器で使うこととし、床用モップ、ハンディモップ、ほうき、はたき、カーペットローラの柄をすべてディルドー型として膣に挿入して固定できるようにしたものを使った。

佐藤希は床用モップを膣に入れて廊下の床磨き、水野由紀はハンディモップを膣に入れて棚や手すりの清掃、柏原瑞穂はほうきを膣に入れてテラスの落ち葉掃き、川上綾は膣にはたきを入れて棚や置物の埃払い、高瀬真由美はカーペットローラを膣に入れて娯楽室のカーペット清掃を行った。

しかしながら、途中、男子生徒が手伝ってあげたにもかかわらず制限時間中に清掃を終えることができなかった。そのため、清掃奉仕活動時間を延長することとし、延長時間中は挿入箇所を膣から肛門に替え、さらに、膣にはローターを入れた状態で清掃活動を継続することとした。

6. 多人数用特別浴場での全身洗浄

反省期間に義務付けられている全身洗浄も、5人同時に実施可能とするために、省スペース型マングリ返し方式の台座が用いられた。通常は、両脚を左右いっ



図4. ハンディモップで清掃する水野由紀

ぱいに開いた開脚台座に乗せて全身洗浄を実施するが、今回の多人数用浴場で使われる特製台座は、仰向けで身体をふたつに折り曲げ、両足首をV字型に広げて頭上で固定する「マングリ返し方式」を採用した。この台座は、非常に省スペースで設置可能なため、台座に乗せた女子生徒5人を一列に並べ、多数の洗浄アームにより女子生徒たちの身体をきれいに洗い流すことができる。開始直後、洗浄アームの動作はすべてオートマチックとしていたが、順次マニュアルモードに移行し、その動きを操作室にいる男子生徒の手に委ねていた。

昨晚の全身洗浄は、男子生徒が非常に熱心かつ丁寧に協力してくれた。5人の女子生徒のクリトリスを洗浄したときには、全員が気をやるまで徹底的に磨き上げ、5人中4人の女子生徒が失禁するほどだった。また、昨年の高瀬真由美の初回反省室指導において名付けられた「アナルキラーブラシ」を全員の肛門に挿入して回転させながら抽挿を繰り返すと、特にアナルが敏感な高瀬真由美を筆頭に、どの女子生徒も窮屈な身体を仰け反らせるようにしながら、喘ぎ泣き出し、潮



図5. 全身洗浄を受ける高瀬真由美

を吹き上げて悦びの声を上げた。

昨日の全身洗浄は1時間にもおよび、汗、よだれ、愛液、潮はもとより、オシッコ、ウンチといった体液、汚物も噴き出し、身体の中も外もきれいになっていった。

7. 反省室での就寝

就寝時は、反省者全員の連帯感を高める意味を込めて、5人全員のクリトリスを床上15cmに張り渡した高伸縮性の糸で連結した。ひとりの動きが全員に伝わるとともに、隣接する男子寮の部屋に人が立ち入ると糸が振動するため、女子生徒たちは皆、股間を突き上げ、尻を震わせながら就寝した。夜中になっても、睡眠中の身体の動きが全員に伝播し、股間から愛液を大量に滴らせる姿が見受けられた。特に、就寝中に入れ代わり男子が反省者の様子を視察してくれたが、そのたびに女子生徒たちの恥丘が突き上がり、空腰を振って連鎖的に喘ぎ悶えるという姿が観察された。

本日早朝、糸を上引き上げて起床を促したところ、女子生徒たちは皆、声高に悲鳴を上げながらクリトリ

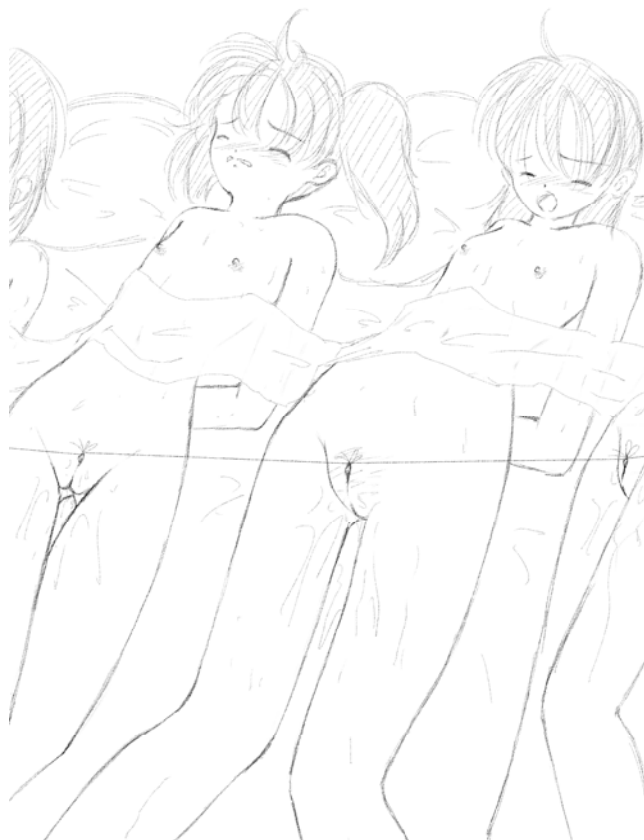


図6. クリトリス連結就寝中の川上綾と柏原瑞穂

スを突き上げ、仰け反りながら目を覚ましたが、その際全員の股間部分がまるでおねしょをしたかのようにびしょびしょに濡れていた。神崎恵理子寮長がその状況を見咎め、寝ている間に股を濡らすというのは反省者の態度として不適切であると判断した。戒めのために、女子生徒それぞれの女性器を指先で罰し、順番にひとりずつ潮を吹き上げさせる「朝の一番搾り」を施すことで、再度反省を促した。

端の女子生徒から順番にクリトリスに結ばれた吊り糸を引き上げながら、女性器に指を挿入し、敏感な粘膜を熟練の指技で刺激すると、瞬く間に喘ぎ声を上げ始め、身をよじりながらも快感に身悶えし始めた。なお、「朝の一番搾り」の最中も、女子生徒たちのクリトリスは1本の糸で連結されていたため、罰を受けている女子生徒の身悶えは、さらに隣で身を横たえている女子生徒のクリトリスへと直接響くことになり、幾人も数珠繋ぎになった喘ぎ声がこだまのように鳴り響いた。

この罰は潮を吹き上げるまで実施したため、どれだけ我慢をしようとしても、単に罰の時間が伸びるだけ

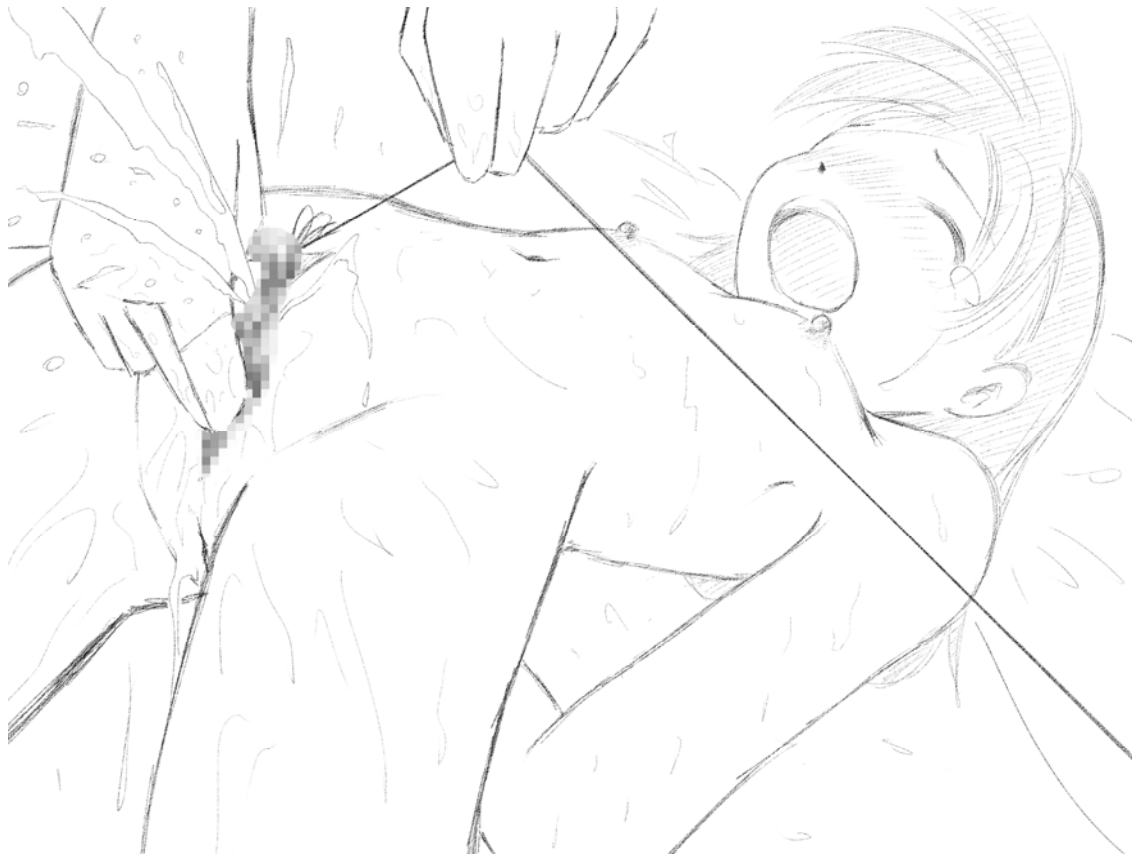


図7. 朝の一番搾りの刑を受ける柏原瑞穂

であり、最終的には、全女子生徒が潮吹き絶頂を晒す結果となった。この就寝室は、男子寮と隣接しており、中の様子が観察可能な状態となっているため、この朝から繰り広げられた潮吹き絶頂シーンは、隣部屋で鑑賞していた男子生徒たちの目に、余すところなく披露された。

なお、この「一番搾り」の最中に二度寝してしまった柏原瑞穂には、速やかな起床を促すために、3回連続で潮吹き絶頂させることとし、クリトリスの吊り糸を引き上げながら、Gスポットの徹底調教を強いた。その結果、柏原瑞穂は、泣きながら潮を吹き上げ続け、はっきりと覚醒するに至った。

8. 朝の風景

本日登校の際、今回の反省対象者は5人と多く、反省者用特別制服の準備が間に合わなかったことから、臨時に通常制服を改造した簡易反省制服と、反省者の証であるリボンを着用させた。簡易反省制服は、通常制服のセーラーカラーを切り取り、襟周りのみとしたものと、スカートの丈を10cmまで切り詰めたもの

である。それぞれ、昨日反省者から没収した本人たちの制服を改造して製作した。

なお、現時点で水野由紀、佐藤希、川上綾の3名が反省室内で排泄したことが確認されている。中でも、川上綾は排便までの始末であり、反省者としての意識が薄いと言わざるを得ない。今回、連帯責任とするために全員尻尾つきアナルパイプを挿入しての登下校を義務付けることとした。

登下校中、男子生徒には反省者たちの尻尾を自由に扱ってもいい許可が出ているが、反省者である女子生徒には、尻尾が抜けた場合にはイチジク浣腸注入後に再度パイプ尻尾を挿入することを命じていた。本日の登校中、柏原瑞穂のウサギ型尻尾と高瀬真由美の猫型尻尾が引き抜かれ、ともに通学中に浣腸を受けての登校となった。2人ともホームルーム前にトイレに向かったが、柏原瑞穂は移動中の三角棒の上で尻尾パイプの隙間から軟便を漏らした。一方、高瀬真由美はトイレまでたどり着いたものの、三角棒を降りたところで猫型尻尾を男子生徒に掴まれ、その場で身動きが取れなくなり、トイレを目の前にした廊下で、結局脱糞し

たとのことだった。

当然、トイレ以外での排泄は当別指導の対象であるため、この2人の浣腸脱糞に関しては連帯責任ペナルティとして、1時間の肛門ウナギ挿入の刑が決定している。本日の放課後、14時30分から15時30分に体育館にて執行する予定である。

9. 学内における反省活動

今回は反省者の数が多いため、学校側でも反省を促すための各種補助用品を用意し、男子生徒が効果的に女子生徒たちに反省を促せる環境を整えた。教室には、男子生徒の要望によりロープを張り渡し、教室に入った反省者たちには、自席に着く前にそのロープを跨いで渡ることを義務づけたりするなど、生徒間で決められた反省方法で積極的な指導が施された。ロープを跨いだ状態で、そのロープを男子生徒に引き上げられ、さらに前後に大きく揺り動かされた水野由紀は、教室の真ん中で身動きが取れなくなり、ロープについた玉が股間を通過するたびに下半身を震わせていたという。

ほかに、休み時間に高瀬真由美の膣と肛門にほうきを挿入して黒板前の床を掃き掃除させたりもしていた。2本のほうきを股間で操る姿は、まさに反省者の姿というにふさわしいものと言える。ただし、ほこりを掃いたにもかかわらず、愛液の跡を残す結果となったため、その後、モップを膣に挿入して掃除を継続することとなった。

また、2階廊下水槽内のウナギたちへの餌やりとして、佐藤希をロープで吊るして半身を水に入れて体液をウナギたちに与えるといった奉仕活動をやらせたりもした。女子の体液などを好物とするウナギたちは、目の前に現れた餌場に集まり、餌を求めて穴の中にもぐり込んでいったようである。このような形で、男子生徒たちは、精力的な反省援助活動をしている。

また、反省室のトイレが使えないことで、排泄は基本的に学校で行うこととなったが、この点でも男子生徒は非常に協力的で、進んで汚れた股間や肛門を拭き清めたりしてくれているようである。

10. 催眠誘導装置との関係

今回はかつてない不祥事が発生し、多人数の女子生徒に長期反省を強いる結果となった。これに関し、調



図8. 尻尾パイプを掴まれ脱糞する高瀬真由美



図9. ロープを跨いで渡る水野由紀

査の結果、今回の暴動事件の直前に、2年生男子生徒が同クラスの女子生徒に対して、催眠誘導機による催眠暗示をかけていたことがわかった。

近年では催眠誘導機の性能も向上しており、非常に手軽な道具となっていることに加え、最近では「後催眠」を用いた催眠誘導も行われ始めている。これは、催眠を解いた後でも、あるきっかけによってあらかじめ仕掛けておいた催眠暗示を誘発させるもので、かけ方次第では自分の意思による行動と誤認させながら、任意の行動を引き起こさせることも可能となる。

今回の2年生女子生徒による一斉暴動に関しても、後催眠によるものである可能性は否定できない。しかし、被催眠者にその自覚がないためか、女子生徒側からの告発はなく、特段の配慮は不要と見なしている。特に、女子生徒への猥褻という観点から考えれば、たとえそれが催眠誘導で行われた行為であっても、本人の意思がある状態で、かつ自分の意思で行ったと認識しているような違反については、例外なく処罰すべきであろう。

現時点で真偽のほどは不明であるが、以上のような判断から、たとえ原因が催眠誘導によるものであったとしても、今回の処置に関して正当性は覆る余地はない。

11. おわりに

今回は、2年生の女子生徒全員が一斉に反抗的態度を取り暴動を引き起こすという、前代未聞の不祥事が発生した。それに伴って、多人数の女子生徒を反省室にて長期拘禁することが決定したが、先立って多人数収容型の特別反省室が完成したことは非常にいいタイミングと言えよう。この特別反省室が使用される機会は当分の間ないと考えられていたために、ある意味僥倖と言える。

その一方で、この特別反省室は現在も一部工事中であり、トイレを含む水周りが未完成である。このことが、反省者である女子生徒に反省室内での排泄を禁じる結果となったが、これも反省を促す意味ではいい方向に作用したと言える。反省者の排泄を抑制することは、常に反省の心を失わせない効果も期待できる。

残り6日間の反省期間について、引き続き経過を報告し、今回の事態の詳細を記録していく。



図10. ほうきを挿入されている高瀬真由美

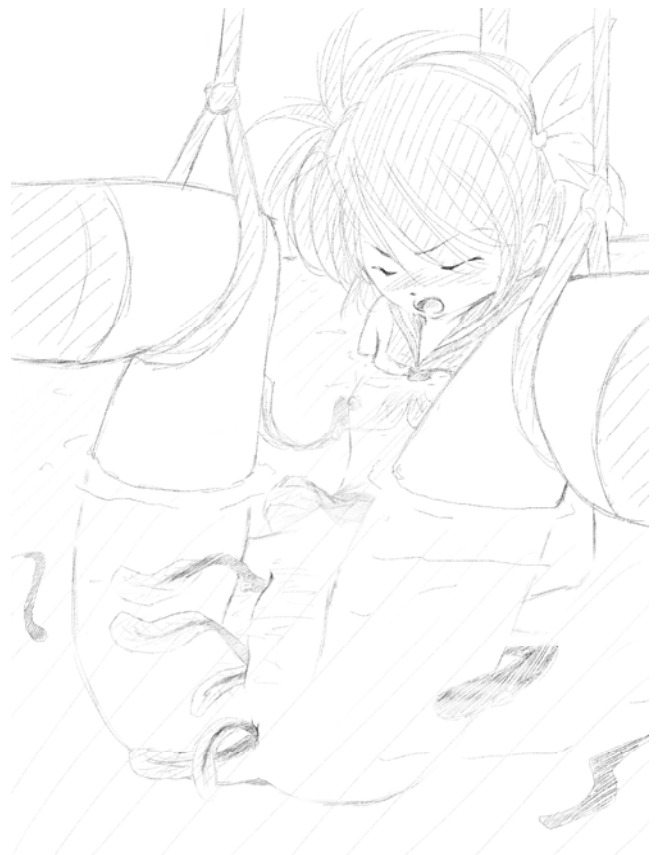


図11. ウナギの餌やりをする佐藤希